

ニュース

「アジア大洋州橋梁交流フォーラム」の開催

2000年9月8日、明石海峡大橋を望む神戸市の舞子ビラで、アジア大洋州地域の橋梁プロジェクトの現状や将来構想を紹介するとともに、橋梁技術等に関する課題についてパネルディスカッションを行い、課題の解決に向けてアジア大洋州各国との連携と協力を推進することを目的として、「アジア大洋州橋梁交流フォーラム」(主催：本州四国連絡橋公団)が開催された。フォーラムの概要は以下のとおり。

第一部：各国報告「各国の橋梁プロジェクトの現状と課題」

1. マレーシア ワヒッド・ビン・オマール (公共事業省 公共事業総局 副総局長)
2. 香 港 チンクウォン・ラウ (土木工学署長)
3. 韓 国 イン・サン・ヨー (建設交通部 原州地方国土管理庁 道路施設局長)
4. フィリピン ダンテ・B・ポタンテ (公共事業道路省 設計局 課長)
5. ベトナム トン・トラン・チュン (交通省 技術局 次長)
6. 日 本 加島 聡 (本州四国連絡橋公団 理事)

第二部：パネルディスカッション「橋梁プロジェクトの課題とその解決に向けて」

コーディネーター：日下部 治 (東京工業大学大学院 教授, アジア土木学協会連合協議会事務局 局長)

パネリスト：チンクウォン・ラウ (香港)

イン・サン・ヨー (韓国)

ダンテ・B・ポタンテ (フィリピン)

トン・トラン・チュン (ベトナム)

藤川寛之 (日本)

最初に、本州四国連絡橋公団の藤川寛之の総裁から、「フォーラムが橋梁技術をつなぐ架け橋となって、橋梁技術に関するアジア大洋州地域の連携と協力を発展させ、橋梁プロジェクトの実現を推進していく実りあるものにしたい。」との開会あいさつがあった(写真-1)。

各国報告では、各国の橋梁プロジェクトの現状や将来計画および橋梁分野における技術的課題等が報告された。また、パネルディスカッションでは、東京工業大学の日下部教授をコーディネーターに、設計基準、維持管理および技術協力について議論が行われた(写真-2)。

設計基準に関しては、アジア地域では各国がそれぞれ



写真-1 藤川総裁の開会あいさつ



写真-2 パネルディスカッションのコーディネーターとパネリスト

独自の基準を整備しているが、将来的には欧州におけるユーロコードなどを参考に、アジア地域における設計基準の統一化を図っていく必要があるのではないかという意見等が出された。

橋梁の維持管理に関しては、点検に基づく予防保全の重要性、維持管理を行う技術者の育成の必要性等が話題となった。

技術協力に関しては、今回のようなフォーラムを通じて人的ネットワークを構築し、技術交流を継続していくことの重要性が強調されるとともに、各国から本州四国連絡橋公団に対し、橋梁技術者の研修や設計の標準化等に関する支援要請が寄せられた。

フォーラムには、海外12箇国からの参加者も含め、建設省、地方公共団体、大学、ゼネコン、橋梁メーカー、コンサルタントなどから、240人もの参加をいただき、盛況のうちに閉幕した。

(文責：大広 始 本州四国連絡橋公団企画開発部調査役)

(原稿受理 2000.10.18)